

## 話題のエピソードを導入部で使おう

萩原 義雄

### 話題づくりの素材 — 新聞誌に探そう —

話題の情報譚とは、どういうところにあるのだろうか。今、日々自宅に朝・夕届けられる新聞誌の紙面に、話題の情報譚を探し出して一つ眺めてみることにしよう。

※「エピソード」という語は、三省堂『新明解国語辞典』第五版に、

エピソード【episode】①問題になっている人や物事に関する、ちよつとした話(で、世間に紹介しておきたいもの)。逸話。②「小説・物語などで」作品の本筋には直接関係の無い内容の話。挿話。

とあります。新聞の紙面に踊る活字の文章は、この「世間に紹介しておきたいもの」そのものずばりを扱っています。何気ない事柄から生まれ出す文章ですが、ご自分の生きている生活に役立てみることから文章の導入部とも云える「書き出し」部文を織りなしてみようではありませんか。

### 新聞誌は、新鮮な素材がいっぱい

本当に身近でつい最近私自身が目にした記事を茲にまず紹介することにします。あふれかえる紙面のなかには、政治・経済・社会・スポーツ・文化とそのジャンル毎に日々新鮮な情報素材を見せていることは誰もが認めていることでしょう。この新聞誌を仮に一年以上全く見ないで生活をしていたらどう変わるのでしょうか？

私は、イタリアで生活していたとき、日本の新聞誌を読むことが全くありませんでした。この空白の時間帯は、まさに祖国「日本」における時代情報の空白期とも云える時間でした。この状態が私の国語文字情報探知環境のなかで生み出されたことで、逆に日本では味わえない外つ国の別の文字や現地体験情報が探知されてきました。ちよつとした日常生活から解放されたときにもこの現象が生まれます。何も大袈裟にかまえず、東京を離れた地方でも良いのです。鹿児島県屋久島に向き、ここでテレビやラジオ、そして新聞誌のない一週間の旅をしても同じことが味わえます。いや、暫く情報媒体を用いずに日々を過ごすのも良いでしょう。ほんの小さな隙間から届いた断片的な情報が逆に記憶の奥底にしっかりと根付くようにです。この状況作りこそが、ものを書くこととする人をして、文筆人たる所以なのかも知れません。のべつまくなし流露し続けている話題の情報譚は、こと細かに整理・整頓し、記録する能力も実は大切な営みですが、これを楽しめず、苦になるようであればこの記録係はご自分には不向きであると言って良いかも知れません。何事も楽しみながら続けることが素養の基本ですから……。

### 話題づくりの実際

1, テレビ番組やCMで「ニッポン」という呼び方が目立つ。国号「日本」の正式な呼び方は決まっていないが、「ニホン」と「ニッポン」について、どんな気分でどちらを使っているのか気になって、放送局や企業にたずねてみた。音の印象で無意識のうちに選んでいることがそれぞれの回答からうかがえて興味深かった。例えば、メンズエステのCMで「ニッポン ダンディ？」と打ち出しているセイップアップハウスは「北京五輪も近いし、応援の意味も込めて「ニッポンにした」という。ニホンは最初から選択肢になかったという。〔朝日新聞2007.06.15「サブCH」(加来由

子)より]

2, 三三五五万四四三一人。両親から延々二十五代をさかのぼれば、これだけの先祖が関わっているという。その数字に感動を覚える。独りよがり、自分のことしか考えない人が多い昨今である。人間同士の繋がり、価値が、これほど輝いて現されている数字はあるまい。「朝日新聞2007.06.18」天声新語「数多くの先祖が支える私と家族」より]

3, 一年で紫外線が最も強くなる六月、東京・三田の玉鳳寺の「おしろい地蔵」に女性参拝客が詰め掛けている。持ち込まれたパウダーで塗られて全身は真っ白。江戸時代、和尚が泥で汚れた地蔵に同情し、おしろいを塗ったら自分の顔のあざが消えた。以来、患部と同じ部位に塗れば病気が治るとの評判が広まったという。「ニキビやシミが取れますように」。地蔵脇のノートには美肌を願う女性の言葉が目立つが、「まずは内面の美しさ。それが外見に出ます」と住職の村山正己さん。「朝日新聞2007.06.18」青鉛筆」より]

※港区高輪の魚藍坂にある曹洞宗の寺、村山さんは駒澤大学に機縁する人々をこよなく面倒みてきています。

4, 朝起きて一杯。仕事の打ち合わせで一杯。眠気ざましにもう一杯。コーヒーは、私たちの生活にすっかり定着した。厚生労働省の研究班は九十年代から、男女約九万人を十年近く追跡調査し、コーヒーの摂取と肝がんの発生率との関係を調べた。その結果、コーヒーをほとんど飲まない人に比べ、ほぼ毎日飲む人は肝がんの発生率は約半分だった。また、一日に飲む量が多い人ほど発生率は低かった。なぜそうなるのか、理由ははっきりしない。「朝日新聞2007.06.18」夕刊「食の健康学」コーヒー 香りにリラックス効果]

ここで、一つの実験です。新しい情報だけが新鮮な素材でしょうか？たとえば、一年半前に提供された同じく新聞の紙面情報です。この二つの記事内容を今、読むことでどのような感覚を人は覚えるのでしょうか？皆様方の忌憚らない意見をお聞かせ願います。

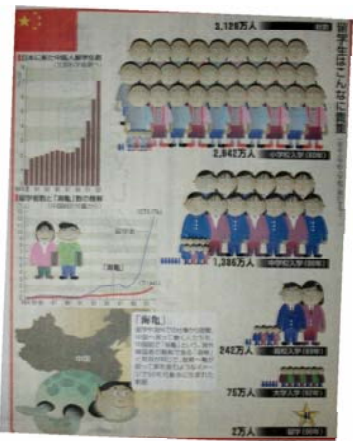
5, 地球とは文化の違う宇宙人でさえ、お年寄りには進んで席を譲ります。「どーぞ」。優先席のマークにはそんな意味があるのです。たぶん。「朝日新聞200

6.11」夕刊「文化おしぼり」第三〇回、ヨシタケシンスケ漫画文より]



6, 中国で、留学先の国から帰ってきて働く人が増えている。「海亀」(九〇年代後半に生まれた新語)と呼ばれるのは、その

発音「ハイコイ」が「海外帰国(海外から戻る)」の略称「海帰」と同じだから。海外での経験を生かして母国で富を築く姿は、産卵のために故郷に戻る「海亀」のようである。日本から上海に戻った「海亀」たちも、日中ビジネスはさまで奮闘している。「朝日新聞2004.04.10」「海亀」、日中の架け橋に「より」]



※森川麟三さんの「海泡」海亀」海星——中国人留学生に関する一考察 その活用こそ、日本企業発展の鍵

―』という論文〔京都女子大学図書館吉澤文庫蔵『節用集』北大寺学術研究叢書1（二〇〇八年、港の人刊）に、

「海泡」とは、海外留学生で帰国するか海外に残留し就職するか、進路で迷っている人たち。

「海亀」とは、海外留学生で帰国後、中国国内で就職する人たち。

「海星」とは、海亀派の中の大成功組、あこがれのスター的存在の人たち。

と断つて、その実情を報告する。他として文末に、「海草」「海參」「海獅」「海鷗」「海根」の新造語を紹介する。

### 素材のストックとそして利用

もう、お気づきになられた方もいるかもしれませんが。新鮮な「生の素材」を冷凍蔵に保管するように、話題の<sup>エピソード</sup>情報譚も<sup>ストック</sup>保管することが可能だということです。その熟成期間を決めるのも保管者の熟練した腕前に繋がっているのではないのでしょうか。ただ、整理保管して一生寝かし続けるのではなく、熟成した文書をどこで、どのように抽出してみせるか、これを現実のなかで味わってみることが必要なのです。たとえば、皆さんが小・中学校時代に記録保管していたこの種の文章などは、熟成される時期を今か今かと待っている「話題の情報譚」に値する素材そのものだからです。

これをゆつくり、周章せずに解凍しつつ、必要な部位だけを適材適所に振り分けながら用いて行くことで、現在の書き手である自分との出会いをしていきます。これから何かを書こうとするテーマとして、文章の導入部は、ここで大きく変貌することにもなるでしょう。